

令和6年6月9日（日）京都市下京区にある梅小路公園において、バスまつり来場者（主に小学生の親子連れ）を対象に、京都京阪バス株式会社様の宇治茶バスを使用して、バリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー教室では、バスのバリアフリーの工夫を聞いたり、本教室に協力いただいた障害当事者講師（車椅子使用者）の六條さんと京都京阪バス株式会社様によるバスの乗降実演や六條さんとの交流を行いました。また、視覚障害の擬似・介助体験も行い、お手伝いの必要性や障害への理解を深めました。

参加者からは、「体験をして、気持ちを知ることが出来ました」「こまっている人がいたりしたらたすけてあげたいです」など様々な感想が寄せられました！

令和6年6月9日（日）12:15～13:00

【内容】

- 挨拶
- ノンステップバスの説明
- 車椅子のバス乗降・固定見学
- バスのバリアフリーの工夫紹介
- 心のバリアフリーについてのお話
- 六條さんへの質問
- 視覚障害疑似体験及び介助体験
- 記念撮影

車椅子のバス乗降等見学

バス乗車→車椅子固定→降車の様子を見学。バスのバリアフリーの工夫等も学びました。



六條さんへの質問

様々な質問があり、実体験を基にした貴重なお話を聞くことができました。



電動車椅子を押してみよう

六條さんが使用している100kg超えの電動車椅子。実際に押してみても重さを実感。



押しても引いても全然動かないよ～

視覚障害疑似体験・介助体験

アイマスクと白杖を使い、介助役の手引きで、バス乗車→椅子に座る→降車ボタンを押す→降車を体験。



声かけが大事！

姫路市立船場小学校でバリアフリー教室を開催

令和6年6月25日（火）兵庫県姫路市にある船場小学校において、4年生80名の児童を対象にバリアフリー教室を開催しました。

今回は、神姫バス株式会社様が水素バス（ノンステップバス）を学校に持ってきてくださり、車椅子でバスの乗降体験をしたり、バスのバリアフリーの工夫を学びました。

また、体育館内で車椅子体験と視覚障害疑似体験を行うとともに、視覚障害当事者の榎さんを囲んで、児童からの質問に答えさせていただきながら楽しく交流しました。

講義や体験、榎さんとの交流を通して、障害や困り事への理解を深めるとともに、お手伝いする際の声かけやコミュニケーションの大切さを学びました。

参加した児童からは、「これからはしょうがいのある人の気持ちになって考えて、こまっている人を見かけたら「お手伝いしましょうか。」と声をかけたい。バリアフリー教室で学んだことを家族などに伝えたい」「他の人の助けや社会の工夫ですこしもこまらないようにしていきたい」など、困り事を解消するために行動を起こそうとする前向きな感想が寄せられました！

また、参加した先生からは「車椅子を使っている人や目の不自由な人の立場になり、心に寄り添うことができたと思う」「心のバリアフリー」について児童が意識をもつこともできた」などの感想がありました！

令和6年6月25日（火）9:45～12:15

●挨拶・スタッフ紹介等（10分）

●講義（15分）

●体験（クラスごと・各35分）

◇車椅子体験

〈介助体験（当事者&介助役）〉

スタート→ジグザグ

→マット（段差介助）→ゴール

〈自走体験〉

◇視覚障害疑似体験（当事者&介助役）

スタート→点字ブロック上を一人で歩く

→（ここからは介助役が案内）

ジグザグ→椅子に座ってゴール

榎さんとの交流

◇バス体験

※クラスごとに3つの体験を順に回る

●まとめ（10分）

車椅子体験

声かけが大事！少しの段差でも上り下りするのは大変。



コミュニケーションを取る
ことの大切さを実感☆

視覚障害疑似体験

言葉で具体的にわかりやすく案内する難しさを実感。



榎さんとの交流

素朴な質問&ざっくばらんなお話が聞けて、楽しい交流の場となりました。



お買い物はどうしてる？

お料理はできる？

etc.

バス体験

車椅子でのバスの乗降をみんなで体験！



「スロープを上がります」

令和6年9月11日（水）大阪府藤井寺市にある藤井寺工科高等学校（定時制）において、高校1年生20名程度の生徒を対象にバリアフリー教室を開催しました。

今回、本教室とは別に社会科の授業にて“心のバリアフリー”の学習を行うことから、体験学習に重きを置いて実施しました。

車椅子介助講師として富田さんをお招きし、車椅子介助の実践的なアドバイスをいただきながら、2つの教室と廊下で、生徒全員が車椅子利用者と介助の体験、自走体験を行いました。

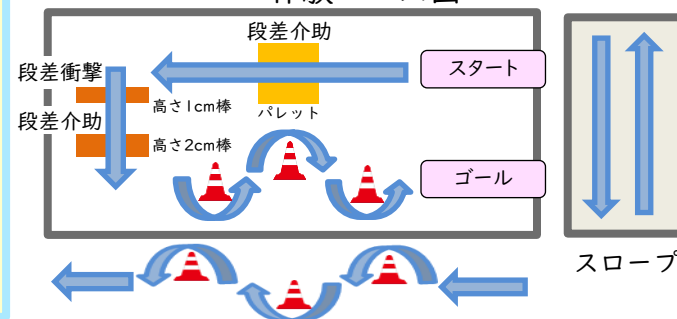
また、障害当事者講師（電動車椅子利用者）の堀さんより実体験に基づくお話を聞いたり、質問に答えていただくなど、体験や交流を通して、手助けの必要性を実感するとともに、障害への理解を深めました。

参加した生徒からは、「**見てるだけだと簡単そうだけど、（実際に車椅子に）乗ってみると一センチ二センチの段差を越えることも難しいんだとわかった**」「**今後困っている人に声をかけやすくなった**」など様々な感想が寄せられました！

令和6年9月11日（水）17:50～19:15

- 挨拶（5分）
- 車椅子介助体験説明・実演（15分）
- 車椅子体験く介助（段差・スロープ）・自走（40分）
- 休憩（10分）
- 堀さんとの交流（10分）
- まとめ（5分）

体験コース図



段差介助体験

パレットを使って段差の介助を体験。前輪上げのコツなど車椅子介助の基礎を学びました☆



スロープ介助体験

校舎のスロープを使って、前向きに上がり後ろ向きに下りる介助体験をしました！



自走体験

狭い道でのジグザグ走行に挑戦。狭いカーブで思い通りに車椅子を動かすことの難しさを体感しました。



堀さんのお話

普段の生活の様子などをざっくばらんにお話しいたいたり、生徒からの様々な質問に答えていただきました。



令和6年10月10日（木）滋賀県彦根市にある河瀬地区公民館において、地域にお住まいの方々14名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

今回は「心のバリアフリー」についての講義を行った後、車椅子の乗車・介助体験と視覚障害者疑似体験を実施しました。講義では心のバリアフリーを広めて、誰もが住みよい社会にするためには役所や公共交通機関だけでなく、社会に住む私たち一人ひとりの協力が不可欠であるということを学びました。また、体験では実際に車椅子に乗った人を介助をしたり、アイマスクをつけて歩いてみたりすることによって、障害への理解を深めるとともに、手助けする際の声かけやコミュニケーションの大切さを学びました。

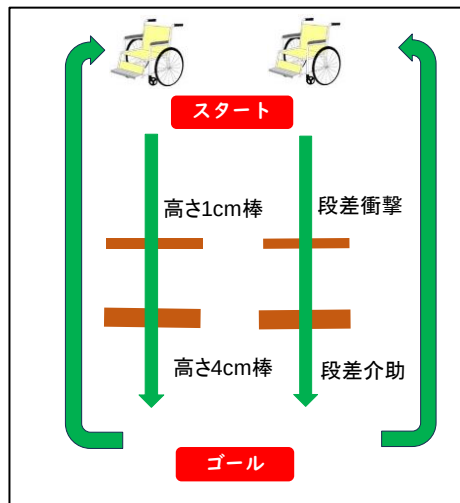
参加した方からは、「相手の立場に立ってみると分からないことだらけ。良い経験だった。」「たった1cmの段差でも大変。そしてアイマスクをかけていると何も見えないので声かけしていただいて安心しました。」等様々な感想が寄せられました。

令和6年10月10日（木）14:00～15:00

- 挨拶
- 講義（心のバリアフリーについて）（20分）
- 車椅子体験（20分）
〈乗車・介助体験（当事者&介助役）〉
スタート→高さ1cm棒（段差衝撃）→高さ4cm棒（段差介助）→ゴール
- 視覚障害者疑似体験（15分）
スタート→ジグザグ→狭い道→椅子に座る→ゴール
- まとめ（5分）

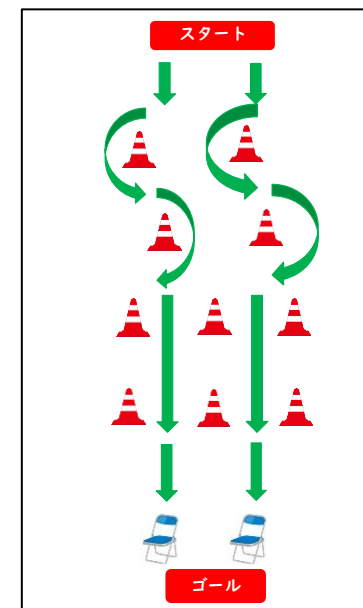
車椅子体験

木の棒を使って段差（1cm、4cm）の介助を体験。前輪上げのコツなど車椅子介助の基礎を学びました。



視覚障害疑似体験

ジグザグ歩行、狭い道、椅子に座る際の介助を体験。案内する際のコミュニケーションの方法を学びました。



芝谷中学校において「キャリア学習」の一環として、2年生27名を対象にバリアフリー教室を実施した。
※キャリア学習…様々な企業からの依頼を受けて、生徒自身が課題を見つけ、情報収集、整理・分析、まとめるを行う、全3回にわたる学習

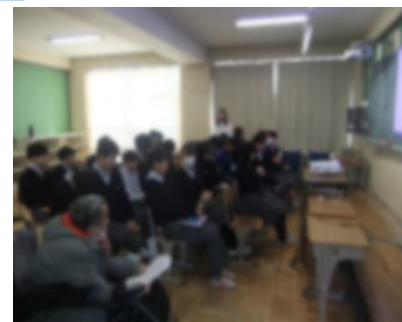
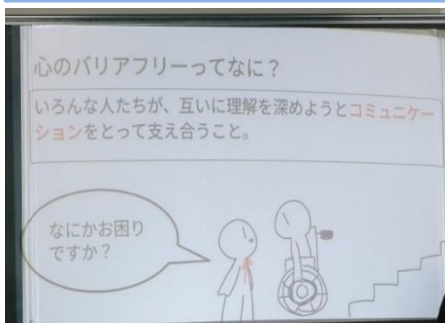
- 第1回 R6.9.11 「心のバリアフリー」に関して、運輸局から講義・依頼内容の発表
- ・「「心のバリアフリー」動画をつくろう」と題して30秒のCMのような啓発動画の制作を依頼。
 - ・車椅子利用者の六條さんから、日常生活の紹介や生活の中の困りごとなどをお話いただいた。



- 第2回 R7.1.10 フィードバック（WEB）
- ・作品を視聴して、運輸局及び六條さんよりコメントをフィードバック（運輸局・六條さんからのコメント）
 - ・直接的な言葉や行動だけでなく、無関心もバリアとなり得る。
 - ・「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人が相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り支え合う事。
 - ・コミュニケーションや具体的な行動について示されているとテーマの趣旨を捉えた動画になる。
 - ・「お手伝いしましょうか」と相手方の意向をまず確認し、何を手伝ってほしいのかを聞き取るなど、双方向のやりとりがあると良い。
 - ・エレベーターは極力使用せず階段を使う、点字ブロックを避けて歩く、荷物などで塞がない等、間接的な行動でも「心のバリアフリー」を実践する事はできる。



- 第3回 R7.2.14 最終報告
- ・生徒による動画及び動画制作にあたって工夫した点のプレゼン。
 - ・当課及び六條さんより講評
 - ・終了後は電動車椅子の乗車体験（運輸局・六條さんからのコメント）
 - ・声のかけ方について、相手に寄り添う様が良く表現できていた。
 - ・声をかけた後の具体的な行動まで示されていて、分かりやすくなった。
 - ・ナレーションや動きが入って、大事な情報がしっかり伝わるようになった。



- ・「心のバリアフリー」を実践するにあたり大切なコミュニケーションについて、視聴者に伝わる作品が増えた。
- ・普段の移動や行動にバリアを感じている人が多くいることに気づき、1人1人が主体的に心のバリアフリーを実践していくことが期待される。